

マーケット概況（2022年8月）

8月の債券相場は高値警戒感から売られて始まったが、超長期債の好需給を背景に持ち直し、5日に10年367回債は0.160%まで買われた。8日発表の対外及び対内証券売買契約において生保による海外中長期債の売越額が過去最大だったことで国内債回帰の需要が意識され、超長期債は更に金利低下が進んだ。10日の5-10年国債買入オペが低調な結果となると需給悪化懸念から債券先物は再度下落に転じたが、17日に20年181回債が6月3日以来の0.745%、18日に30年75回債が6月8日以来の1.055%の高値をつけるなど、超長期債の堅調地合いは継続した。18日の20年債入札は無難な結果となったが、結果発表後に戻り売りが出て、超長期ゾーンが押し戻される展開となった。その後、26日のジャクソンホール会合でパウエルFRB議長が、インフレが大幅に抑制されるまで利上げを継続する姿勢を示したことを契機に米国長期金利が3.1%台まで上昇すると、29日には10年367回債は0.235%、30日には20年181回債は0.890%と、それぞれ7月21日以来の水準に金利上昇した。その後、月末にかけて年限長期化の買いが入ったことで債券相場は下げ幅を縮小し、10年367回債は0.220%で今月の取引を終了した。

<短国市場>

3Mは月を通して-0.1%前半で推移した。5日の3MTDB1099回債入札は最高落札利回りが-0.12%台となったが投資家需要が減退し-0.11%台に上昇した。19日の3MTDB1103回債は-0.1162%となり、セカンダリー市場では-0.12%台～-0.13%台に低下する局面もあった。月末にかけては、ドル円ベーススワップのマイナス幅が縮小傾向となったことで26日の3MTDB1104回債は-0.1062%に上昇したが、投資家需要により最終的に-0.118%で取引を終えた。6M・1Yの入札は順調に通過しセカンダリー市場では概ね-0.1%後半で推移した。9日の6MTDB1100回債は-0.1387%となったが投資家需要を背景に-0.170%に低下し月末は-0.2%台の気配で終えた。18日の1YTDB1102回債は-0.1311%の一本値となり、6Mの低下圧力が波及し-0.170%に低下して終えた。

<一般債市場>

10年地方債は国債カーブ+12.0bp、5年地方債は同+9.0bpといずれも前月比同水準で条件決定した。8月の供給量は多くはないが、10年債は実勢水準と比較しタイトな条件のため予約の入りはやや遅く、消化に時間を要するものもあった。既発債は、月後半に金利水準が反転上昇する環境下、投資家の慎重な運用姿勢が継続しスプレッドのタイト化には至らなかった。社債は、例年8月は夏季休暇を挟み一般事業会社の起債が閑散となるが、高速道路会社や電力各社の起債により発行額は前年同月比1,258億円増加し6,291億円となった。SDGs債関連では、発行体として初めて新関西国際空港がソーシャルボンドを起債した。

◎ 主要債券月間四本値

| 銘柄 | 始値 | 高値 | 安値 | 最終出来値 |
|---------------------|------------|------------|-------------|-------------|
| #367 | 0.185(1日) | 0.160(5日) | 0.235(29日) | 0.220(31日) |
| #366 | 0.125(1日) | 0.090(16日) | 0.180(30日) | 0.155(31日) |
| #356 | 0.050(1日) | 0.020(5日) | 0.170(29日) | 0.145(30日) |
| #153(5Y) | -0.020(1日) | -0.040(9日) | 0.025(24日) | 0.010(31日) |
| #181(20Y) | 0.860(1日) | 0.745(17日) | 0.890(30日) | 0.850(31日) |
| #1096-#1100 TDB(6M) | -0.150(9日) | -0.170(9日) | -0.150(9日) | -0.170(9日) |
| #1098-#1104 TDB(3M) | -0.135(5日) | -0.140(5日) | -0.110(12日) | -0.118(30日) |